
心絵

LINK

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心絵

【Nコード】

N71700

【作者名】

LINK

【あらすじ】

近すぎてわからないこの思い・・・
胸の中にある気持ちがすべてを台無しにする・・・
今ある関係でよかったのに・・・

序章

なぜ古文の授業はこんなに眠くなるのだろうか？
昔の人も日本人なら日本語喋れよと思いながら6限目を受ける。

ちなみに自己紹介しておく、俺は風見 優。カゼミユウ 桜学園高等部2年
だ。このバカみたいに生徒数の多いマンモス校で一応学年トップの成績を保持している。 自慢にもなりやしねえ・・・

(チャイム)

優「さて、帰るか」

??「おゝい 優！ 今日、道場来るだろ？」

優「ん？ 今日はいかねゝよ」

??「なんだよつまんねゝな 今日こそ新技くらわしてやるうとおもったのに」

優「透・・・ お前ももう少し言動を女らしくしてみたらどうだ？」

透「うるさい！ 私の勝手だろ！ それに私が 「ゝなのよ」とか言ってたら変だろうが！」

こいつの名前は片山 透。(カタヤマトオル)
家が道場で男ばかりに囲まれてきたせい口調と態度がスゲー男勝

り。ちなみにこいつの母親は超がつく美人で、スゲー優しい。そして父親の方は「男！！」を人に仕立てあげたかのような人だ。こいつは母親似なんでスゲー美人なのに・・・世の中そう甘くはない！こんな性格なんで男女とわず友達が多いが恋愛対象として見られることはまずない！しかし、女子からは非常に好かれていて今学期ですでに6人の女の子から告白を受けている。俺の幼なじみ。

優「うん 確かにキモい」

バコッ！！

優「痛つてー！！ 何すんだー！！」

透「お前に言われると腹立つ」

良一郎「やってるねえ」 二人。夫婦喧嘩も程々にしろよ」

優・透「違うわ！！！！！！」

バキッ ドゴッ ドォーン

良一郎「ナ、ナイスパンチ・・・だぜ・・・グフッ」

このバカは杉山 良一郎 スキヤマリョウイチロウ 基本的にバカだが・・・やっぱりバカ運動神経は抜群だか頭は悪い ちなみに・・・バカ

良一郎「・・・説明酷くない？」

優「何の話だ？」

透「バーカ」

結花「あの・・・ ちょっといいかな・・・」

優・透・良「んっ??」

結花「先生が優くんの事呼んでたよ・・・」

優「ああ 悪いな結花。 富沢に俺は帰ったって伝えといてくれ」

結花「だっ、ダメだよ。 先生怒っちゃうよ。」

この子の名前は佐藤結花^{サトウユイカ}

良一郎と正反対のマジメちゃんだ。 男子からの人気も高く 成績は425人中4位と優秀組の1人。 だけど いつもオドオドして周りに圧倒されてる（笑） 運動音痴でかなりの天然。 昔から好きな人がいるらしいが俺達幼なじみも誰かは知らない。

透「サッと行って来て 早く道場行くぞ」

優「ああ・・・?? 何で行くことになってんの??」

良一郎「富沢先生からのラブコール 羨ましいね」

優「じゃあちよっくら行ってくるわ。 透 任せた」

透「了解」

俺が教室を出た後 学校中に悲鳴が響き渡った・・・

平穩

優「失礼しまーす。」

先生「風見君。 何をしてたのかしら？ 呼ばれたらすぐ来なさい。」

優「スイマソン」

トミザウセンセイ
富沢先生

俺の苦手な先生。 ちなみに担任です。

いつも何かあるとに俺のことを呼んで説教をする嫌な先生。

若くて美人で有名だが非常に厳しいのが難点、おまけに俺のことばかり

目の敵にしているので更にたちが悪い・・・

先生「君だけよ、進路希望調査のプリント出してないの。」

他のみんなはちゃんと提出日に出しているのにあなたは どうして出していないのかしら？」

答えは簡単だ、進路のことなんか考えちゃいないからだ・・・

俺には少し複雑な事情があるがこの話はまた後ほど・・・

優「すいません、忘れてました」

先生「この前の全国模試 東大合格率94%って評価が出てるんだから

東大にすればいいじゃない。 未来が広がるわよ。

あんたはおれのなんなんだ・・・ 親みたいなことを言うのはやめ

てくれ

優「いや、東大はやめておきます。模試で東大を選んだのも一応選んだだけなので。」

先生「まあ君がそういうならそれでいいけど・・・明後日までには提出するように。」

いいわね？」

優「はあゝい」

明後日もまた説教を受けることになるであろう・・・

職員室を出た後、俺はそのまま校門に行くと案の定透が待っていた。

透「おつす 何の用事だったんだ？」

優「その前に、バカの悲鳴がとてつもなく聞こえたけど・・・死んだのか？」

透「・・・いい奴だったのに（泣）」

優「・・・そうだな・・・（泣）」

透「つと、冗談はここまでにして、先生なんだって？」

優「ああ、進路希望のやつ。この歳で進路決まってる奴ってすげえよ 尊敬する。」

そういやお前も出してるんだよね？　なんて書いたんだ？」

透「私か？　私はとりあえず大学って書いたかな」　あんまり賢くないから

いい所にはいけないけど」

たしかにこいつの成績は並みだな

優「ふう〜ん・・・　そんなもんか・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7170o/>

心絵

2010年11月8日17時54分発行